

数字で見るジオキャラバン「おもれエ〜！ 山陰海岸ジオパーク」

2011年度は「おもれエ〜！ 山陰海岸ジオパーク」と題してキャラバンを展開しました。数字で振り返ります。昨年の7月16日から今年の1月18日まで、西は鳥取市から東は京丹後市まで、各市町ごとに関連施設をキャラバンしました（写真参照）。期間は各施設で3週間から6週間、総来場者数57,116人、総セミナー数は48でした。このうち15のセミナーの講師は、地元の施設職員や活動グループのメンバーでした。ひとくスタッフは総勢9名がそれぞれの地域を分担してコーディネートし、搬入・搬出、展示制作、セミナー等関わった者を合わせると18名になります。それぞれの施設職員、活動拠点にするグループ、市役所、町役場のジオパーク担当者、山陰海岸ジオパーク推進協議会のみなさんには、展示やセミナーの企画から搬入・搬出、セミナー講師、展示開催まで大変お世話になりました。山陰海岸ジオパークが少しでもみなさんにとって身近なものになっていれば大成功です。

藤本真里（地域展開推進室）



新温泉町山陰海岸ジオパーク館



香美町海の文化館



岩美町立渚交流館



湖山池情報プラザ



道の駅 神鍋高原



京丹後市琴引浜鳴き砂文化館

Kidsキャラバン in 八戸 & 久慈 Kids

東日本大震災の被災地の子どもたちに元気になってもらおうと、昨年12月に青森県八戸市の八戸市児童科学館と、岩手県久慈市の「もぐらんぴあ・まちなか水族館」でキッズキャラバンを行いました。

今回のキャラバンに参加したスタッフは中瀬副館長、八木主任研究員に加えて、キッズひとく推進室のメンバー5名です。うち2名はオオクワガタの拡大模型や様々な標本、機材を積んで博物館の公用車で八戸に向かいました。

青森県は、岩手、宮城、福島に比べて報道される機会は少なかったのですが、八戸には津波が押し寄せ、死者も出ています。今回の八戸訪問は、昨年7月の仙台キャラバンの時に視察に来ておられたNPO法人あおもりNPOサポートセンターの橋渡しにより実現したものです。

八戸でのキッズキャラバンは25日、クリスマスの日です。八戸市児童科学館のスタッフは赤い帽子をかぶっていました。オオクワガタ、アカハライモリ、ゴキブリなど、生きた生物にさわってもらう「むしむしたいけん」をNPO法人こどもとむしの会と協力により実施し、昆虫標本をじっくり見ながらの塗り絵も人気でした。植物では、八戸市内で小館研究員が調達したマツのタネをとばしたり、タネの模型をつくったり、ひつつきむしのダーツで遊んだり、盛りだくさんなメニュー。化石で

もアンモナイトのレプリカづくり、触れる化石、それと、児童科学館の敷地内で採集した石の中に入っている小さな化石の観察など、いろいろ行いました。

八戸では事前に広報して下さったこともあって、多くの子どもたちに来てもらうことができました。中にはほとんど一日中いてくれた子もいたようで、八戸の子どもたちの熱気に圧倒された一日でした。

久慈市の「もぐらんぴあ」は地下に展示室があるユニークな水族館として知られていましたが、海岸近くにあった施設は3月11日の津波によって全壊してしまいました。そのためしばらく営業を休止し、昨年8月に久慈駅前の家具店の空き店舗を利用し、「もぐらんぴあ・まちなか水族館」として営業が再開されています。もぐらんぴあへの支援は東京の日本科学未来館からの要請により八戸行きとは別に検討していたのですが、八戸訪問の計画も同時にまとまってきたので、続けて開催することになりました。

久慈でのキャラバンは八戸の翌々日27日です。岩手県立博物館学芸員の藤井さんも駆けつけてくださいました。こちらでは、「むしむしたいけん」や塗り絵、化石の観察などは、広い部屋の中央に敷いた畳の上で行いました。八戸よりも人数が少ないこともあり、子どもたちやお母さん方と畳の上でじっくり話をしながら交流することができました。地元の久慈川で拾った石の中に入っ

ている小さな化石も観察してもらいました。活動の終了後、スタッフのみなさんと記念写真を撮影して、もぐらんぴあに別れを告げました。

今回のキャラバンでお世話になった八戸と久慈の皆さんに、この場を借りてお礼を申し上げます。これを機会に、今後も継続的な交流をお願いしたいと思います。

古谷 裕（キッズひとく推進室）



顕微鏡で熱心に観察（久慈）



むしむしたいけんは大人気（八戸）

生物多様性協働フォーラム、大盛況！ 今後の展開にご期待を！



井戸兵庫県知事と嘉田滋賀県知事による対談

昨年8月より実施してきました「生物多様性協働フォーラム～関西から発信する多様な主体による広域連携に向けて～」。関西での生物多様性に関する企業の先進事例の紹介や自治体・企業での生物多様性の取り組みの活性化のヒントとなる情報を提供してきました。その締めくくりとなる第3回を、2月12日（日）に兵庫県公館にて「社会の『つながり』を活かした取り組みの展開」をテーマとして開催、450名の方々に参加いただきました。

事例紹介では、当館の中瀬副館長が「行政の仕組みを活用した企業の森づくり」と題して兵庫県での企業の里山保全や工場緑地における生物多様性保全に関する先進事例、それらを支援する行政支援プログラムについて紹介しました。また、結・社会デザイン事務所 代表の菊池玲奈さんより琵琶湖の生物多様性を保全するための企業の取り組み姿勢を示した「琵琶湖いきものイニシアティブ」の内容と実践事例について、(株)ブリヂストン彦根工場 山田保之さんより工場ビオトープを活用したカワバタモロコの保全など自社の地域の生物多様性保全の取り組みを紹介いただきました。

対談では、井戸敏三兵庫県知事（関西広域連合長）と嘉田由紀子滋賀県知事（関西広域連合広域環境保全担当委員）を迎え、当館岩槻館長の司会進行のもと、広域連携の視点から関西における生物多様性戦略の展望について熱く語っていただきました。

参加者のみなさんが熱心に耳を傾ける様子を拝見し、関西における生物多様性の保全と持続可能な利用に対する強い関心や、そのための「多様な主体による参加と協働」への期待の高まりを感じました。2012年度以降もひとくは生物多様性への取り組みにご期待下さい。



橋本佳延（シンクタンク推進室）